

ポイント1

3カ国の英語の違いを学ぶ

愛媛大学所属の外国人教員3名が、それぞれ同じ原稿を音読している動画・音声を収録したコンテンツを作成します。
3名はそれぞれ出身国が違うため、学生は3カ国のネイティブの英語を聞き、国ごとの発音等の違いを学ぶことができます。



アメリカ英語

▲工学部 lange roderick lee



イギリス英語

▲工学部 barclay samuel christopher



音声のみ

▲英語教育センター Kristin Armitage

用語解説

工学英語

技術者として必要な、日本語によるコミュニケーション基礎能力を持つ事を目標としていた英語です。基礎教育としての英語だけではなく、工学に関する基本的な用語を理解できる必要があります。

ディクテーション

「聞き取った英文を書き取る」という、非常にシンプルな勉強法です。耳に入る英語を、どれだけ正確に聞き取れているかが問われるもので、ヒアリング能力が鍛えられます。



ポイント2

英語教材開発に伴い、映像の「あり」「なし」を比較する

外国人教員が同じ文章を読んでも、「映像あり」（読んでいる文章にまつわるスライドをモニターに映し出している）で聞く場合と、「映像なし」の音声のみで聞く場合で、学生はどちらが「ディクテーション」を行い易いのかを比較します。この、映像の有無による比較を行うことで、より良い教材の開発に繋がります。



映像あり



映像なし

撮影風景

3名の教員が同じ原稿を読むという前提があるため、教員が文言を間違えないよう、あらかじめ文字原稿を「プロンプター」※に表示しています。そうすることで、教員はカメラ目線で、かつ原稿をスムーズに読むことが可能です。



撮影前には、担当教員と綿密に打合せを行います。立ち位置や、声のトーン、手の動きなど細かく設定し、何度か撮り直しを行って、より良いものをコンテンツとして採用します。



プロンプター

※プロンプター／放送・講演・演説などの際に、電子的に原稿や歌詞などを表示し、演者を補助するための装置・システムのこと。